<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>宿泊業実習２</td><td rowspan="5">担当教員</td><td rowspan="5">髙橋　伸佳
中尾　清
高橋　加織
辻村　謙一</td></tr>
<tr><td>必修の区分</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td>授業の方法</td><td>実習</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td>２年第４クォーター</td></tr>
<tr><td>講義内容</td><td colspan="3">人口減少社会においても、わが国の宿泊産業は訪日外国人の増加もあり、宿泊者数は比較的底堅く推移していく見込みである。しかしながら、中長期的な観点でみると宿泊産業は慢性的な人材不足を背景に、新たな担い手と生産性の向上が求められている。加えて、投資ファンドの流入や運営形態の多様化、民泊事業者の台頭など業界地図が塗り替えられている激変期において、今後も宿泊産業を持続的に発展させていく新たな対応が必要となっている。
第２クォーターでの実習した基礎知識をもって、新たな宿泊施設にて実習を展開する。その際、実習の中で宿泊施設の新たなビジョンを構想しつつ、実現可能性の高い企画を考案していく実践力を養うものとする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">・宿泊産業の業務の体系的な理解に磨きをかけつつ、ビジネスモデルを理解し、課題の発見や業務改善の観点をもって常に業務に取り組む。
・宿泊産業における知識・理解、技能（業務遂行力）、志向・態度、コミュニケーション力に加え、ビジョン形成力、イノベーション力、マネジメント力の修得にも重きを置く。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">1.　ガイダンス、授業の進め方
宿泊業の実習現場についてのオリエンテーション
観察・インタビュー技法解説、実習個別目標の設定・記載
2.　宿泊業実習①：フロントサービス部門、実習・インタビュー
3.　宿泊業実習①：フロントサービス部門、実習・インタビュー
4.　宿泊業実習①：フロントサービス部門、レポート提出
5.　宿泊業実習②：料飲・宴会部門、実習・インタビュー
6.　宿泊業実習②：料飲・宴会部門、実習・インタビュー
7.　宿泊業実習②：料飲・宴会部門、レポート提出
8.　宿泊業実習③：客室部門、実習・インタビュー
9.　宿泊業実習③：客室部門、実習・インタビュー
10.　宿泊業実習③：客室部門、レポート提出
11.　宿泊業実習④：営業・マーケティング部門、実習・インタビュー、レポート提出
12.　実習生発表・まとめ：実習先施設、各部門の概要と機能、オペレーション体制について発表するとともに、ホテルへの提言をまとめて発表する。
（注）２～11 については実習先施設により運営や体制が異なるため、
実習先によって個別に内容を調整することを想定している。</td></tr>
<tr><td>事前･事後学習</td><td colspan="3">・テキストを事前に通読し、ある程度の専門用語を理解しておくことが必要である。
・テキストの指定箇所を事前に読み、実習現場における疑問点や実習におけるポイントを整理しておくこと。
・実習中は部門の研修を終える度にレポートを記載して提出すること。</td></tr>
</table>

テキスト	なし
参考文献	・「ホテル概論 第5版」JTB総合研究所（2016） ・「ホテル観光用語事典」日本ホテル教育センター・「フロント・オフィス・システム＆オペレーション」日本ホテル教育センター ・「宿泊業務の基礎」日本ホテル教育センター ・「宴会業務の基礎」日本ホテル教育センター ・「レストラン業務の基礎」日本ホテル教育センター ・「外客接遇の基礎」日本ホテル教育センター ・日本の宿おもてなし検定委員会「日本の宿おもてなし検定（初級）公式テキスト第5版」JTB総合研究所 ・日本の宿おもてなし検定委員会「日本の宿おもてなし検定（中級）公式テキスト第4版」JTB総合研究所
成績評価の基準	レポート（20%）、実習への取り組み姿勢や日報の内容など実習態度（30%）、実習発表（50%）
履修上の注意 履修要件	宿泊産業論を履修していることが望ましい。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	各実習施設の部門責任者・管理者には事前に評価表を手交し、実習生に対する評価をしてもらう。